

1 どういう性格・パーソナリティか

型	性格の側面	弱	普通	強	指数
思索型	内閉性：孤独な面があり内省するタイプ	[Progress bar]			37
	客観性：思慮深く冷静に判断するタイプ	[Progress bar]			49
活動型	身体性：活動的で機敏に動き回るタイプ	[Progress bar]			64
	気分性：気分で行動に変化があるタイプ	[Progress bar]			58
努力型	持続性：何事も粘り強くやり通すタイプ	[Progress bar]			72
	規則性：規則等を重視し行動するタイプ	[Progress bar]			63
積極型	競争性：競争心が強く積極的に動く傾向	[Progress bar]			65
	自尊心：自らのプライドを尊重する傾向	[Progress bar]			62
自制型	慎重性：慎重に見通しをつけて動く傾向	[Progress bar]			70
	弱気さ：考えすぎて遠慮がちになる傾向	[Progress bar]			55

■この人の中心性格は「努力・持続性」および「自制・慎重性」であるが、「積極・競争性」や「活動・身体性」といった側面も本人は意識している。

●「努力・持続性」及び「自制・慎重性」の人のパーソナリティスケッチ

仕事でも日常生活でも几帳面なほうで、キチンとしていなければ気がすまないタイプといえます。手がけ始めたことは、コツコツと努力し、途中で投げ出すことなく最後までやり抜こうとします。徹底したところがありますから、ときにはそれがしつこさとして映ることもあるでしょう。常識から外れた行動をとることもなく、あくまでも社会規範に沿った生活を重視します。そのため、拘り定規な判断が多くなり、斬新さや柔軟性に欠けるきらいがあります。とはいうものの、大きな失敗をしないところは取り柄といえるでしょう。また、過信せずある程度の見通しがつくまで行動しない慎重さもあります。他人の意見なども自分が納得するまでは、簡単に受け入れることはありません。状況が変化すると、自分なりにその理由を調べてから次の行動に移ろうとします。自分自身を抑えることのできる良さでもありますが、気弱で引っ込み思案とも思われてしまいます。何事にも我慢強く努力を重ねますが、実際にはデリケートで繊細な性格です。

●もう一方の性格特性

内にこもったところはなく、外向的な人といえます。関心は常に社会的な出来事に向かい、職場の雰囲気などにも気を使う、気配りのできる人です。自分の殻に閉じこもり、孤独に生きていくというものは程遠いところにいます。ただ、夢や空想、芸術的な生き方には興味がなく、ワビ・サビという部分は見られません。

<この帳票の見方>

自己分析シートでは、性格、社会性、意欲の側面から診断しています。まず1ページ目では、あなたの中心性格を示し、次に日常生活場面での行動傾向を述べています。また、あなたの強み・弱みの把握ができるよう、具体的なアドバイスも記述されています。心理イメージに描かれている顔のイラストは、顔と人間の性格についてよく言われる言い回しをもとにあなたのモニターージュを作成しました。外見的な顔ではなく、心の顔を絵で写し出そうとしたものです。2ページ目では、具体的な職場場面での対応力、自己評価と行動予測をグラフで示しています。対応力や行動予測は、1ページ目の診断結果より、あなたの行動傾向を予測したものです。あなたが思う本当の自分とのズレを感じる部分もあるかと思いますが、この診断結果によって、自分を見つめ直し、自己理解を深める機会ととらえて下さい。さらなる向上を目指すには、まず自分自身を知ることが大切です。自分を知り、さらなる向上を目指す手だてとして、ご活用下さい。

2 一般的な場面での社会性

社会性の側面	弱	普通	強	指数
積極性・活発度	[Progress bar]			48
周囲との協調性	[Progress bar]			62
責任感・一貫性	[Progress bar]			73
自分への信頼度	[Progress bar]			44
指導・指示傾向	[Progress bar]			69
仲間との共感性	[Progress bar]			75
感情の安定度合	[Progress bar]			45
他者への従順性	[Progress bar]			49
自ら進んで実行	[Progress bar]			57
社会的自我確立	[Progress bar]			42

●「仲間との共感性」について

仲間との共感性とは、人間関係や環境に対する適応度もいえ集団での仲間意識の尺度を表します。様々な場面で仲間と同じ立場で物事を考えることは組織での共同作業には必要なものですが、この傾向が高い場合は

▼周囲の人の意見に引きずられてしまう、自分なりの考えを発言することを得意としない

▼八方美人と見られる言動や行動がみられ、自分の意見を周囲に合わせてしまう

といったことが考えられます。集団での人間関係は仲良しだけでは職務に対する機能が低下します。一步離れた位置から客観的に全体をながめ、自分の意見を積極的に進言したり、仲間に忠告をすることも必要です。

●「責任感・一貫性」について

責任感・一貫性とは、引き受けた任務や役割分担に対する認識度を表し、自らが責任をもって物事を最後まで投げ出さない姿勢を意味します。職務や役割に対する責任感と言い換えられます。この傾向が高い場合は、

▼見込みがないことでも、気持ちの切り替えができず、新しい事に控えめになる

▼思い入れが強い分、うまくいかない時は、他罰的になるか必要以上に自分に責任を感じてしまう

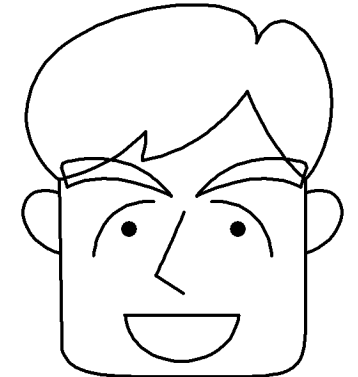
といった行動になりがちです。何でも引き受けてしまうと、逆に身動きがとれなくなります。分担すべきところは分担するなど割り切る姿勢も必要です。真剣な一生懸命さはいいいのですが、時には息抜きも必要です。

3 心理イメージ

■心理イメージをイラストであらわすと

がんばり屋の性格 → 角張った顔
 他人の忠告を適度に聞き入れる → まっすぐな眉
 周囲を引っ張っていく → 太い眉
 あまり目標にこだわらない → 小さな瞳
 新しいことにはあまり興味が無い → 下がった目尻
 目立ちたがり屋ではない → 普通の鼻
 人と一緒にいるのが好き → 笑った口元

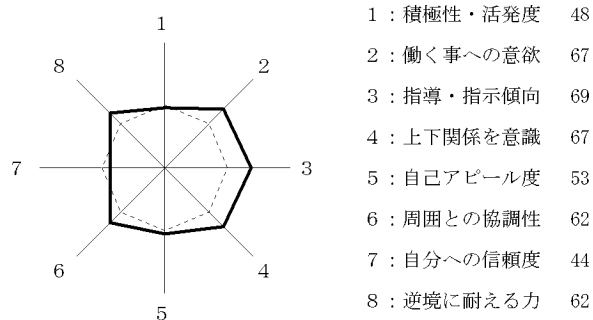
となり、右のような顔ができあがります。



4 仕事場面での対応力

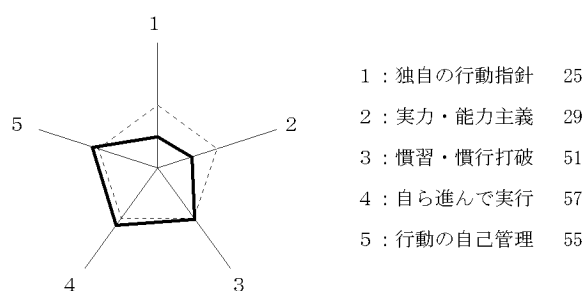
————— : あなたの得点
 : 基準(50点)

■何事にも積極的な姿勢で取り組む傾向



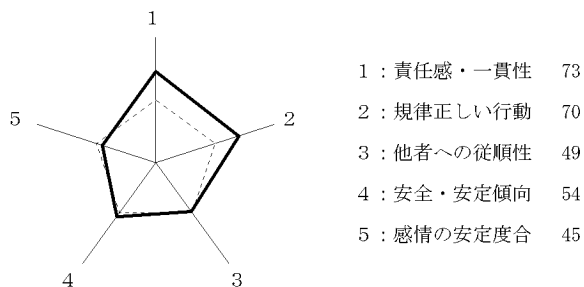
どんなときにも積極的に仕事に取り組もうとしている様子がうかがえます。仕事に対する興味、役割認識などもできているようで、自信を持っておこなっていることと思われます。時間配分や目的達成への計画などにも気を配り、さらに実力を発揮していくよう、今後のますますの健闘を期待します。

■人に頼らず自分の力で成し遂げる傾向



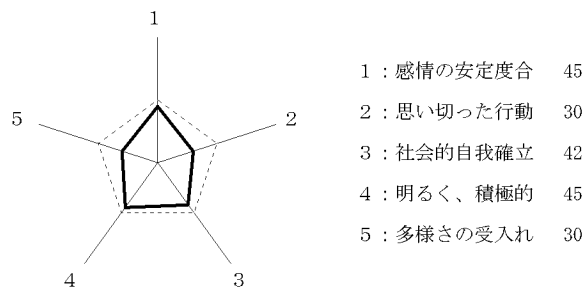
自分の力を信じて先へ進むよりも、周囲に合わせて穏やかに過ごしたい思いのほうが強いようです。ただし、単なる仲良し集団で終わってしまうのではなく、自分らしさを発揮したいならば、気になることや興味のあることを追求していくべきです。ときには周囲の思惑やなれ合い的な態度に背を向けてみるのもいいでしょう。

■ねばり強く最後までやろうとする傾向



責任感が強く、やると決めたことは最後まで面倒を見るといった姿勢がうかがえます。周囲の出来事に振り回されることもなく、目的を見失うことはありません。精神面での強さが感じられますので、役割や業務に対する認識を強めていくことで、周囲からも頼りにされる存在となっていくことと思われます。

■強い意志を持ち前に進もうとする傾向

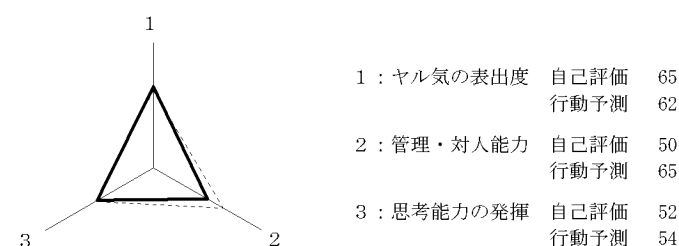


何かあると気持ちがしぼんだり、迷ったりするなどして、途中でくじけてしまうこともあるようです。たとえ時間がかかったとしても、自分なりの考えをまとめたものであれば、それほど簡単にあきらめなくなるはずです。応援してくれる仲間を見つけるなど、続けていくための環境づくりから始めてみるのもいいでしょう。

5 自己評価

■自己評価と行動予測の比較

————— : 自己評価
 : 行動予測



■ヤル気の出出度について

積極的に仕事を進める能力があり、自分でも自信を持って取り組んでいる様子がうかがえます。どんなことでも、自分で自分をきちんと評価していなければ、本来の力は発揮できません。あなたの行動の結果は、周囲も評価していることと思われます。目的を見失わず、ますます前進していくことを期待します。ただし、周囲とのバランスには注意したほうがよさそうです。自分の求められている役割や仕事内容について再確認し、一人の考えで突っ走ってしまうことのないように気をつけて下さい。

■管理・対人能力について

周りの人を気遣い、よい方向に進めるような力を持っているにも関わらず、自分を過小評価している傾向があるようです。多少の事にめげることだけでなく、実際には引っ張っていくことが多いのではないのでしょうか。ただ、自分はきちんと任務をこなしているという自信がなければ、せっかく様々な可能性を持っていても、行動にあらわすことが難しくなってしまいます。本当に実力を発揮するには、やはり自信を伴っていなければなりません。特にリーダーシップには自覚も必要です。心がけてみて下さい。

■思考能力の発揮について

自分自身を客観的に見ている一面があり、必要以上に過信することはないのですが、反面、自分の限界を勝手にここと決めてしまい、それ以上の力を出せなくしています。単にわかっているだけでなく、日頃から関係する分野に関する情報収集に努めるといいでしょう。専門知識や技術力などは、一朝一夕で身につくものではありません。小さいことの積み重ねが自信につながります。適当なところであきらめてしまうことなく、ひとつのことを突き詰めて考えてみると、そこから新しい突破口が見いだせます。